11月17日　初等外国語教育法

授業リフレクション

①本日の講義では、指導をするにあたって評価することの重要性がわかった。グループワークで、中高生のころの英語の授業を振り返ってみると、テストが教科書からの穴埋めであったり、形式がずっと一緒だったりと、暗記科目のようになっていたケースが多かった。テストは1番わかりやすい評価の形だと思うが、これだと本当に子どもが苦手と感じている部分がわかるのかと疑問になった。他には、立たせて単語を答えるまで座れないゲームや、ALTの先生と簡単な話すテストをするなど、様々な評価の仕方があったが、嫌な思い出として心に残っている人も多かった。小学校において、子どもの苦手を把握しやすく、授業をつくっていく材料にできるような評価の仕方はどのようなものがあるのか気になった。

②私たちはグループディスカッションの際に、少し外国語学習の話からはそれてしまいましたが、評価のあり方、順番をつける必要性について話し合いました。私たちが過ごしてきた小学校、中学校では当たり前のように席次がでて通知表もなんの疑問もなくもらってきました。ですが、席次で順番をつける意味を考えたときに、どうして順番づけするの？と言われて何も言えませんでした。評価も、人と比べてする評価ではなく子供たち一人一人ののびしろをはかる評価であるべきではないのかという意見もあり、グループディスカッションで他の友達の意見から新たな気づきがありました。評価に関しての講義をさらに聞きたくなりました。

③今回のビデオを見て、グループの中で最も意見の多かったのは、「指導計画を逆向きに考える事」である。附属小学校の先生は当たり前のようにそのことを述べていたが、今の自分たちには手順通りに考えるのが精一杯で逆向きに考えれる余裕もない。なので、将来逆向きの考え方ができるようになっているといいな、という共通の意見だった。中・高の「山が当たった」「外れた」という経験はきっと誰しもあると思う。大城先生はどちらかというと、「評価する意味がなくなるので子どもたちに範囲を伝えてもいいのでは？」という意見だったが、確かに評価の事を考えると最初にきちんと伝えたほうがいいような気もするが、現生徒側としてこの質問に答えるとすると、範囲を細かく教えてもらえないからこそ、大変でも勉強しなければという気持ちになるのではないか、という考えである。きっと範囲外の勉強はしないのである。なので、範囲を細かく伝えない方が、その子の知識をしては身につくので良いのかな、と感じてしまう。このように考えてみても指導と評価の一体化というものは、常に何が正しいのか分からず難しいものである。また、琉大附属では５年生が自己紹介をして４年生がアルファベットを並び変えるという交流があったが、45分という授業時間をこの活動以外でどのようにしているのか気になった。学年も英語力も違う子どもたちを関わらせる上で難しい所しか今は想像できず、どのようにして異学年での交流を行っているのか、気になったのでもっと知りたかった。評価や指導も踏まえて何が子どもたちの英語にとって必要かを考えなければならないと実感した。

④大学生の模擬授業では、その1時間の授業ばかりを見てしまいがちであるため、しっかりと単元を見通し、模擬授業をするにしても、その前後の授業との繋がりやや単元を見通せるように意識したいと感じました。次に、年間指導計画を考える際、教科書会社のサンプルをそのまま使ってしまってはいけないと思いました。全国一律にだされたサンプルでは、それぞれの学校の特色などが考慮されていないので、子どもたちの実態や学校の特色を意識しながら年間指導計画を考えたいと思いました。 学習指導要領を読んでみて、国際理解教育が全教科及び学校教育全体を通して取り組むべきものであることを初めて知りました。外国語活動や総合的な学習の時間で、国際理解教育をするというイメージが強かったので、驚きました。このことから私は、英語の授業で国際理解教育を行う際に、他教科の国際理解教育と関連させながら授業展開をすると良いのではないかと思いました。 最後のブレイクアウトセッションでは、いかに子どもたちのためになる評価ができるかを話し合いました。そこでは今までの順位をつける評価は子どもにとって無意味ではないかという考えに至りました。私は、子どもの成長を評価する方法を取り入れるべきだと思いました。子どものためになる評価は、教師が指導する際にもその子にあった指導のポイントが見えやすくなるため、子どもにとっても教師にとっても利点の多い評価であると思いました。今の世の中、順位をつけて評価するような方法は時代遅れだと感じました。

⑤今回の講義では、授業を作る際は一つの授業で完結させるのではなく、何時間か使って、一つの単元を扱い、授業を行う時はその単元で最終的に何を学ばせたいのか見通しをもって授業を行うことが大切だと感じた。また、単元だけでなく、上級生になった時や、最終的に子ども達にどのような力をつけさせたいのか見通しを持つことも大事だと考えた。また、その際には評価と関連図けることが大切で、中学生の頃は定期テストなどでどれだけ到達出来ていたか評価する場があったが、そのテストは範囲は指定されているがどこから出るのかは分からず、教科書を丸暗記して答えるようなものであった。しかしそのような評価方法では、自分の伝えたいことを人に伝えることが出来ているのか評価することが難しいと感じた。小学生の外国語の授業ではどのように評価したらよいか今回の講義では答えが出せなかったので、自分なりに考えて答えが出せるようにしたい。

⑥私は、今回の授業の中で、琉大附属小学校の先生の説明動画の中で「始めに目標を決めて、その目標を達成するための授業を逆向き(後ろ→前)に計画していく」という言葉が印象に残りました。目標を始めに設定する、というところまでは予想できましたが、授業の計画を後ろから考える、というところは知らなかったので、勉強になりました。また、今回のグループセッションの中で、私たちのグループでは「指導と評価の一体化」を行うためにはどのような活動が必用なのか、を話し合いました。そして、やっぱり学んだことを身に付けるためには、学習したフレーズや文法等を使用する機会を沢山設けることが大切だろう、という考えにまとまりました。授業を行う先生が、この授業、この単元を通して伝えたいこと(要点)を、しっかりと理解しておく必要があると感じました。

⑦年間計画で大切なのは、その学校の実情や児童の実態を考慮することであり、たとえ同じ学年であっても、この計画は毎年見直しして作成しないといけないということが分かりました。また、逆から計画を立てていくという点が私が思っていないことで面白いと思いました。 　指導と評価の一体化については、評価だけで終わらず、その後の指導まで必要ということで、学びに終わりがなく、教科によっては授業外まで発展させることができると感じました。学んだことを日常の生活の中で利用できるようになるという利点だと思います。 同じ教科書を使っていても（同じ学校でも）、先生によって成績が伸びるクラスト伸びないクラスがありました。（平均点に差）学校ごとに差が出るのはカリキュラムも関係してるかもしれませんが、学校内だと先生自身の経験の差なのでしょか。同じくらいのレベルにするというのは難しいのかなと思いました。

⑧今回の講義では、評価に対するところと、目標に関するところだったのですが、これまでやってきたことは、目標は、大きく捉えたところを単元ごとに濃縮させていくことで、より子供たちの成長につながるということを感じた。また、評価に関しても、授業内容と一体化させることがこれから必要になる。授業内容が評価との関連が薄いことで生徒たちの成長がさえぎられているので、授業内容と評価の一体化をすることで、子どもたちの成長につなげられるようにしていきたい。

⑨年間指導計画を作成する際は、教科書についている年間指導計画をそのまま使うのではなく、地域の特性や学校の実情、児童の実態に即して年間指導計画を作成しなければならないと学んだ。また、他教科や学校行事との関連を意識して年間指導計画を作成すると、外国語の授業で他教科や学校行事にまつわる言語活動ができ、つながりを持った学びが展開されるので、切り離された学びにならないように他教科の年間指導計画を互いに参照しながら学習指導計画を作成したいと考える。指導と評価の一体化は児童の現在の能力を見ながら、評価を上げるために指導を行うことを繰り返すことなので、試験を行って評価して終わるのではなく、試験の結果をその後の授業づくりの参考する姿勢が重要になると考える。

⑩今回の講義では指導と評価の一体化を進めていることが分かった。他の講義において｢評価とは生徒の学習状況の把握｣であると言われ、本講義でも先生が似たようなことを言っていたことから、点数・順位付けの評価から生徒の能力の高まりを見る評価へと変化していると考えられる。現在書いているこのリフレクション自体も、先生に対する授業評価であるとともに自分に対する授業姿勢や理解の評価になっているといえよう。そう考えた時に、｢振り返りが大事｣と中学・高校で耳にたこができるほど言われてきた理由が少し理解できた。昨今｢PDCAサイクル｣なるものがよく使われるが、評価はC(Check)に当たるもので次のA(Act)に繋がるものであると考えることもできるはずだ。

⑪今回の講義では、年間計画の立て方を中心に学びました。これまで私が行ってきた模擬授業では指導計画を立て、実践を行い、まとめという流れでやってきました。しかし、実際の現場では計画を立て、実践を行うことで終わりではなく、指導しながら計画を立てまた指導して計画を立てるというように常に授業を振り返りながらよりよい授業を行うことが大切だと分かりました。また、グループワークでは評価の方法について話し合いをしましたが、子ども一人一人に合わせた指導法をして一人一人に同じ基準で評価を与えることは難しいのではないかという議論がなされ、どのような基準で評価することが大切なのか、どうすればよい評価になるのかという疑問が生まれました。また、グループの中には特別支援の人がいて、特別支援では外国語の授業が後回しになりがちではあるがそういう子達にも外国語を教える必要があるのか、教える際にはどのようなことに意識して指導すればよいのかという議論も生まれました。今回のグループワークでこのような特別支援の人の話を聞きことができ、普段とは違う立場から考えた議論は面白いと感じました。これからの学校現場では通常学級の中にも特別な支援を必要とする生徒が増えてくると考えます。そのため、今回の議論のような視点から考えた議論も大切になると感じました

⑫今回は、指導計画について考えた。初等体育の授業で単元計画を考えたことはあったが、始めから考えてしまっていたことを思い出して、本来なら、目標に向かうために段階を踏むので、ゴールから考える必要があるということに気付かされた。グループワークでも、計画を立てるのは大変そうという声があったが、話し合いを進めていくうちに、計画を立てることで、他教科や学校行事と関連づけて、深い学びにつなげることができるという話にまとまった。また、テストはあるのか、テストでの評価におもきをおかない場合、ルーブリックを使うことなどが考えられるが、そういった評価の仕方は先生の判断によるものなのか、学校で決まっているものなのか、などの評価やテストに関する疑問が残った。その他にも、今年はコロナの影響で公立の学校を見に行く機会がなかったのでもっと公立の学校の授業を観察し、計画の立て方や評価の仕方を考えたいと思った。これらのことを踏まえても、新しく教科化した、評価の仕方が再検討されている中で、置いていかれないように、また進化し続けるために色々な知識と実践例を知っておく必要があると感じた。

⑬今回の講義を受けて、外国語教育には15項目も評価する能力があり、これらの能力を全て評価することはとても難しいのではないかと感じた。また、話し合いの中でもALTの先生と会話などを楽しむのが小学校の外国語教育だったのに対し、中学校では文法事項を多く学び小中で外国語の学び方にギャップがあることが問題視された。このギャップを埋めるためにも今回の講義でおっしゃっていたように先を見越した教育活動が重要になると感じた。（名前がありません）

⑭年間指導計画を作成するにあたり、大切なことが2つあると学んだ。 一つ目に、教科書全体に目を通し、見通しを持って授業を考えることである。4時間後、6時間後、12時間後の授業で、「あの授業はここにつながるのか！」と感じられるような授業づくりが必要である。しかし、教師の多忙さや経験のなさから、研究授業や明日の授業しか考えられない状態に陥りやすい。しかし、児童は習ったことをすぐ出来るようになるわけではないため、単元の中で繰り返し行ったり、単元を通して目標が達成されるような計画を組んだりすることが重要であると分かった。 二つ目に、教科書に付属している年間指導計画はあくまで標準であるということを理解し、各学校で計画を立てる必要があるということである。地域や学校ごとに授業の進み具合や児童の学習進捗も異なる。そのため、単元を入れ替えたり、省いたりすることで、その学校の実情や、児童の実態に合わせることが大切である。児童をよく知る人物は担任であり、教科書に付属する計画を立てたのは他人である。担任がクラスの児童一人一人の顔を思い浮かべながら計画を立てることで、授業の中で児童の笑い声や楽しんで学ぶ姿を引き出すことが出来る。また、英語で表現するときに大切なことが、自分の本当の想いを言葉にすることであると考える。それを可能にするためには、身近な生活と関わらせ、学校行事や他教科の学びと関連させることで、素の言葉を引き出すことが出来ると学んだ。 講義で年間指導計画を立てるのは本当に大変なことだと感じた。だから教科書に付属している計画をそのまま用いるほうが楽で簡単だからこそ、教科書を教える授業に陥るのだとも理解できた。しかし、先生が苦労して、大変な思いをしてでも、児童のために時間を割き、考えに考え抜いた授業を行うことは、必ず児童に伝わるのではないかなと思った。

⑮今回の講義の中で、テストでどんなものが出るかわからないことがあるとありましたが、ディスカッションではほとんどの人から形式が決まっていることが多いから、だいたい知っていたという意見が出ていました。小学校の時の話では、フレーズが言えてるかのチェックなどがあったり、みんな立って単語を言えたら座っていくなどの活動が出ました。この話し合いの中で、私たちが受けてきたテストというのはここが出る‼︎というのは決まっていて、高い点数を取るために頑張っていたんだなという感じがしました。 評価は、子どもたちがどれくらいの知識を身につけたか確かめたりするだけでなく、教師自身の評価にもなるということを改めて感じました。指導と評価をつなげるという意味を完全に理解したわけではないので、もっと学んでいきたいと思います。

⑯本日の講義では、指導案の作成方法について検討した。授業内の動画で、英語の標準時間が140時間を目標としているのに対し、50時間しか確保できていない学校もあることを知り圧倒的に授業時間がたりていないことが、問題点だと感じた。ディスカッションでは、実生活との関わりがある授業に対しては賛成の意見が多かったが、評価方法や基準の設定が難しいのではないか、という意見もあり、改めて指導と評価の一体化の難しさを感じた。一人一人の成長の過程を適切に評価していけるような、授業づくりを考えていきたい。

⑰私は今回の講義を通して、教科書にある年間指導計画は、あくまでも標準的な例であるため、必ずしも教科書通りに進める必要はなく、その学校の状況や児童の実態を踏まえた上で作成する必要があるということを学んだ。また、年間指導計画は、柔軟に考え、毎年見直す必要があり、学校全体で共有することも大切であるということを学んだ。さらに、年間指導計画では、他教科の内容や学校行事と関連させたりすることで、より充実した授業を行うことができるため、教科単独で考えるのではなく、様々なことと結びつけて考えることが重要であると考えた。他にも、1時間の授業は、1時間だけで完結すると考えるのではなく、単元のまとまりで完結すると考えることが必要であるため、単元計画を立てる際は、流れを1時間ごとではなく、流れを重視すべきであると学んだ。また、単元計画を作成する際は、単元のゴールから先に決め、そのゴールを達成するためには何をすべきかと逆向きに考えていくべきであるということを初めて知ることができた。さらに、従来のように指導と評価を分けて考えるのではなく、指導しながら同時に評価することが大切であるということを学び、グループワークでも、指導と評価を同時にすることで、確実に学んだことを習得することができるということを話し合うことができた。

⑱目標と評価の一体化はその通りだなと思っていたが、指導と評価の一体化がよく理解できなかったのでグループの話し合いで教えてもらいました。また、それは具体的にどんな指導になるのか考え、少し難しかったですがこれからその視点も大事にして模擬授業など臨んでいきたいと思いました。

⑲今日の講義では、年間指導計画の立て方と指導と評価の一体化について学びました。私はちょうど先日、初めて模擬授業を経験し、模擬授業１時間の授業内容は一生懸命考えましたが、単元計画はあまり深く掘り下げなかったので、大城先生の「１時間の授業をどれだけ上手くやれたとしても、長い目で見て計画を立てている先生には勝てない」という話を聞いて、自分のことだと思いドキッとしました。たしかに学びの連続性が無ければ、子ども自身も何を学んでいるかわからないだろうし、学んだことに対して自分の成長を感じることも難しいと思います。模擬授業のうちから、単元のまとまりを意識した計画を立てるように気をつけたいと思います。話し合いでは、順序づけのテストや他者と比べるような評価は子どものためになるのか？という意見から、その子だけを見た時の評価が必要だと話し合いました。またグループに特別支援の方がいて、特別支援では、その子のために指導案を作り、その子だけの評価をすると聞きました。附属中でも席次を出すのを止めたと知り、今後ますます個人内評価が重視されていくのかもしれないと思いました。他学科の人の話を聞けたことは、とても勉強になりました。

⑳今回の講義では、単元計画や年間指導計画の作り方や大切さについて学びました。現在いくつかの講義で指導案の作り方や評価規準や方法の決め方などを学んでいますが、ほとんどが１単元分の指導案しか作成しないため、見通しをもって授業を組み立てていくことは難しいと感じました。また、実際の授業経験がないため、年間や学期ごとなど細かく作成していくことは厳しいと思いますが、２、３年後などの未来像をイメージして逆算しながら目標を立てていくことが大切だと考えました。印象に残ったのは、教科書の単元計画見本通りに行うのではなく、各学校・地域に即して柔軟に調整すること、年間行事などと関連させながら決定していくことです。その学年だけではなく、他学年での履修内容なども考慮しながら作成していくことが重要だと感じました。グループで話し合っていると、自分たちが教科化された外国語を経験していないため、イメージしづらいと思いました。私が疑問に思ったのは、教師が身につけて欲しい内容を児童に伝えると、それは暗記に偏らないかということです。目に見えない部分の評価をどのように行っていくのかを考えていかなければならないと感じました。

㉑今回の授業では、「指導」と「評価」の一体化とはとはどんなものなのか？一体化するためにはどうしたらいいのだろうか？ということについて考えました。スポーツや人間ドックのように、その人の力に焦点を当てて目標を立てたり、評価することが一体化に繋がると分かりました。また、グループワークセッションでは、「算数とかの授業では指導と評価の一体化について考えることやイメージすることが簡単なのに、どうして外国語だと難しいのか？」と言うことについて話し合いました。算数のように、正解や不正解がハッキリしていないことや、子どもが分かっているか、分かっていないかがハッキリしていないことが問題なのではないかという意見がでました。また、テストを実施することや、それによって順位をつけることの意味は何なのかという疑問もあがりました。生徒同士で比べることで評価する方が適しているのか、個人の伸びしろや力で評価すること方が適しているのか、どちらが外国語にピッタリなのかという、「教科によって評価の方法を変えた方がいい」という意見も出てとても面白いセッションになりました。

㉒今日の講義では、指導案の作成、単元の計画、評価について学びました。講義内で何度も言われたのが、指導と評価の一体化でした。単元計画や指導案を作成する中で、評価の方法も同時に考える必要があると学びました。自分なりに考えると、評価基準を思考力、判断力、知識技能の分野で決めた後、どのように評価するのかを決めて、それをきちんと子供たちに知らせることが大事だと思いました。また、一つ一つの授業で完結させるのではなく、単元の中で子供たちに身につけさせることを考えるなど、単元のまとまりを意識した計画を行う必要があると思いました。指導案の作成も、最終的な単元の目標から逆算してつくるようにすると、上手く行くことも学びました。今の自分からしたらとても難しいことで、できるかどうか不安ですが、頭に入れておき、実習の時に役立てたいです。

㉓本日の講義を受講して、年間の指導計画を立てる際には自分が担当する児童の実態をしっかりと踏まえたうえで、3年生から6年生までを見通し目標を設定することが大切であると学んだ。また、年間の指導計画、単元の計画、学習の指導案を連携させ流れを意識することも重要である。後半のグループワークで指導と評価の一体化について話が挙がったが、算数や理科など科学的根拠に基づいた教科では授業途中の評価という観点でも取り組みやすいと思ったが、外国語や国語など途中評価が明確にできない教科はその工夫が必要であると思った。席次の話も上がっていたが、自分の高校では希望性が採用されていて友人と競いながら自分の力を図ることが好きな私は、席次の公開でまらりと比べられることに特に違和感はなかった。周りと比べられる環境の中でも自分の伸びしろをしっかりと図ることのできる生徒はいるし、そのような考えも取り入れ個人に合わせた評価媒体を基準としていくことが大切であるなと感じた。

㉔指導計画をたてる際には目標を先に決めて、その目標を達成できるような授業を計画すること、その目標を先生同士だけでなく、子どもたちとも共有することが大切だと学んだ。グループセッションでは、先を見通した授業を作るにはある程度経験がないとできないのではないかという話が出た。コツをつかむまでには時間がかかるだろうなと感じた。

㉕今回の講義を聞いて年間指導計画はその学校の事情や子供の実態に合わせたものでないといけない理由を細かく知ることができた。また、グループディスカッションの時に評価は子供の伸びしろでつける事ができないかという意見が出て、それについて話し合った。私は、そもそもの通知票という物自体が子供を点数化して知いるもので、その通知票をつけるためにテストがあり、他の子供との順位付けが行われていると考えた。今現在行われている評価方法は、子供が幸せになるための評価ではなく、子供の順位を明確にする評価になっていると感じた。評価は、子どものためにやるものであるのにも関わらず、他人と自分を比べるものさしになっている気がする。この事から、わたしは子供の成長課程を評価することができる評価方法が良いのではないかと思いこれからまた、いろんな人の話を聞いて自分なりの答えを見つけようと思う。

㉖これからは評価だけ授業だけで行わずに交互に行うことが求められていることを学びました。年間指導計画を立てるときに他教科や学校行事との関連ができるように事前にやることで、後々後悔することがなくなると思いました。年間指導計画などを立てるときに、学年の先生みんなで決めるのか、教科ごとに分かれて決めるのかがきになりました。(小林可怜)

㉗今回の講義を通して指導計画作成の難しさを知った。もし自分自身が英語教育の指導計画作成を行なった場合、学びの価値、目標をどの様に設定しれば良いのだろうかと疑問を感じた。コミュニケーション能力を育むや国際理解の態度を育むといった究極系の学びの価値や目標は何となく設定しているつもりだが、単元ごとの学びの価値や目標といえばどう捉えれば良いのかわからなくなってしまう。しかし、結局これも自身の英語に関する理解不足からくるモノなのかなと感じた。また、外国語は英語だけではないという意識も授業を追うごとに感じ、最終的にはどの様な言語でも気持ちを表現し、コミュニケーションを図ろうという態度を育むべきなのかなとも感じた。

㉘結果だけで評価するのではなく、｢なぜここが出来なかったのか｣子どもたちが自分なりに分析し、解決に向かって努力することが子どもたちの学力を伸ばすためにも大切であるなと感じた。 私たちのグループセッションでは、中学校専修と小学校専修の人とで分かれていた。評価の仕方について話し合ってみると、やはり中学校と小学校では評価の仕方を変える必要があるなと感じた。私は小学校専修であり、小学校では英語ができるか出来ないかではなく、｢英語に興味を持つことが出来るか｣｢英語を使うことに対して自信を付けることができるか｣だと考える。中学校の英語では文法などを教え、英語をできるようにしていく授業展開だが、教科書だけでの評価をすることは良くないという意見がでた。しかし、それに比べて小学校は子どもたちの興味関心、自信をつける英語学習へのスタートだと思うため、教科書なしで評価をすることは難しい。小学校の評価の仕方は教科書にそって評価するしかないのかなと考えさせられた。

㉙今日の講義ではブレイクアウトセッションを通して小学校の外国語の授業のあるべき姿を考えることが出来ました。私たちの班では、テストについての話し合いをした。自分たちの小学校時代はテストというテストを受けた記憶がほとんど無く、楽しい授業のイメージを持っていた。しかし、話し合いを進める中で小学校ではあまりペーパーテストを受けたことはなく授業態度やワークシートなどで評価をされていたのに対して、中学校では教科書を覚えなければ解けないし、例文や文法を覚えなければテストが解けず小学校での外国語と中学校での外国語の間に大きなギャップが生まれ英語嫌いが生まれるのでは無いかという話をした。具体的な対策は考えることは出来なかったのだが、小学校ではコミュニケーションを重視することも必要であるが中学校に向けて各学校のレベルに合わせながらペーパーテストも取り入れていく必要があるだろうと考えた。また中学校でもただの暗記にならないようにコミュニケーションを取り入れた楽しい授業をしていく必要があり外国語の授業はしっかりと工夫していかなければならないと感じた。

㉚今までは指導と評価は別だと思っていたが、指導と評価は同時に行い、生徒の状態に合わせた指導が必要だと思った。また生徒の評価項目を細かくすることでより詳しく生徒の状態が分かるので1人1人細かい評価をすることが大切だと思った。

㉛今回の講義を通して、指導と評価の一体化について考えることができた。映像資料のなかで、指導しながら評価を行う、評価をしながら指導を行うとあったように、教師は常に指導する内容を考えながら評価する内容も考えなければならないと感じた。また、指導案をつくる段階で評価内容を明確に示しておかなければいけないと感じた。加えて、小学校での実践例のなかで、外国語教育を先を見通しながら考え、6年生卒業時になってほしい子どもたちの理想像を描いてから、指導案をつくっていく例があったが、これによって、小学校外国語教育の一連の流れをつくることができ、教師も流れを把握しやすくなるのではと考えることができた。そして、この理想像を描いてから指導案をつくるためには、段階や単元ごとに指導目標をたて、計画を立てる必要があると感じた。

㉜今回の授業では、指導計画における評価の仕方について学習しました。一番理解しやすかった例が、終盤にあった水泳の例です。実態把握や、今後の指導計画のために子どもたちの学習状況を評価することが大切で、評価と指導がつながることが子どもたちの学びにつながることが理解しました。評価の方法も様々な視点から手段を選択することによってより深く理解につながるような評価ができると考えます。その関わり方をうまく指導計画に練りこめるように腕を磨いていきたいです。

㉝学習指導計画を作る際に先を見通す力が必要不可欠であるということを学んだ。特別支援学校の指導計画のたてかたと異なる点もあったが、子供の実態に合わせた指導というのはどの教科でも重要だと感じた。評価については、子どもがどれほど伸びたのか一人一人に合わせて評価することが一番良いと感じたが、1クラス40人という現状では難しいと感じる。子どもたちが学ぶことの楽しさを感じてもらいながら指導を行なっていくためにも、教師は常に自らを成長させ現状を改善していくことが重要だと感じた。

㉞今回の授業では「指導と評価の一体化」という言葉がとても印象に残りました。児童の実態を見ながら学習を進めていくことの重要性を感じさせられました。また、指導年間計画を作る時のにも、教科書会社の作ったものを当てはめるのではなく、教科書会社の年間計画はあくまでも参考程度にして、児童の進度や理解を実際に見ている児童に一番近い教員が作って学びを進めていく、計画するということが大切だということが分かりました。これから現場に立つにあたって気を付けていきたいと思います。

㉟指導と評価について考え、評価をとおして児童の理解度、得意不得意などを把握し、指導に活かすことが大切だと思いました。グループでの話し合いで、中高のときに英語に対して苦手意識があり、発表が苦痛だったという意見が出て、苦手を楽しく克服するための指導法を考えていきたいと思いました。単元全体を見通して授業の工夫をしていきたいです。

㊱今回の講義では、指導計画を作成する上で大切なこと、また評価の仕方について学びました。教科書会社が出している年間指導計画は、あくまで標準的な例であって、その学校の方針や子どもの様子に合わせて改善を加えながら指導計画を作ることが大切だと学びました。長く児童と関わることが出来る担任だからこそ、常日頃から児童の様子を観察しておくことが大切だと考えます。また、他教科と関連づけたり、学校行事などと関連づけたりしながら言語活動を行うと良いと学びました。子どもが伝えたいと思うことを引き出し、他の人に伝えるためにどう表現するべきかを考えてもらうことで、より思考力や想像力、判断力の育成に繋がると考えます。

㊲指導と評価の一致という言葉がすごく心に残りました。自分が英語の授業を受けていた時、授業では発音や音読を重視している授業なのに、評価のテストでは文法事項の問題ばかりで、授業とテストは別物というイメージがありました。こういったイメージを子どもが持つと、英語は文章が書ければいいや話せればいいと偏った学習を行う可能性があると思います。きちんと、指導と評価を一致した指導案を作ることも子どもの学習に大きく影響すると感じました。

㊳今回の講義を通して、目標と評価の一体化ではなく、指導と評価の一体化を目指すべきだということを学びました。授業の中で、最終的にはこうなってほしい（またはこういう考えをしてほしい、もってほしい）というのが私の持つ目標の解釈であり、それを評価基準にするとゴールの部分しか見えていないと思うので、そのゴールにたどり着くまでの過程（指導内容や子どもたちの思考回路）を見て評価することが大事だなと感じました。また、単元計画を立てる時に評価基準を決めておくことで、ブレずに子どもたちを見つめることができるという意見がグループディスカッションの中で出てきたのですが、あらかじめ基準を決めておくことで自分の気分や主観で判断することは減ると思うので、その通りだなと思いました。

㊴今回の授業で、指導計画の作成について学んだ。あまり、指導計画について考えたことがなかったので少し難しく感じる部分もあった。年間指導計画は、教科書会社のものをそのまま使うのではなく、各学校で自校の指導目標や領域別目標の実現をめざして、外国語の学習開始時から卒業までの見通しを立てて作成していることが当たり前と知った。また、この年間指導の作成には、学年担任、英語担当の教師を中心に多くの先生のもと立てられおり、さらに、年度初めまで作成されていることが望ましく、教師のすごさを改めて実感した。 また、動画の中では、琉大付属の先生によるアドバイスがあった。そこでは、逆算して立てると目標が立てやすいというアドバイスが、自分の中にそのような考えがなかったので、とても参考になった。また、教科書では単元と語彙、表現を決めておいて、各単元で行う活動や具体的な評価基準などについては新しい単元に入る前に決めるという方法も一つの案だと思った。